



ホームページが新しくなりました。QRコードを読み取り御覧ください。スマイル附属情報を様々に発信中です！

令和4年度 附属小学校だより

スマイル²ふぞく



第11号 令和5年3月15日（水） 校長 古野 祐一

マスコットキャラクター決定！

182人の応募から16作品を選出し、2次選考としてキャラクター総選挙を実施しました。全校児童の投票の結果、ベスト4が選出されました。結果発表に際し、集会委員会の子どもたちから「自分たちに発表を手伝わせてください」と申し出がありましたので、コラボ発表を3月7日（火）の児童集会で行いました。集会委員会の子どもたちが司会をし、発表前のドラムロールをしたり、入賞した作品に込められた願いを〇×クイズにしたりと、楽しい結果発表になりました。結果は以下の通りです。

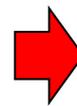


お気に入りを選んで投票する子どもたち。

マスコット・キャラクター大賞
6年1組 福田 悟くん



【作品に込められた願い】
ハトは「平和が長く続きますように」という願いを込めていて、星は「北斗七星」や「北斗の子がずっと輝く」という思いを込めています。



第一弾の活用は、決定記念の缶バッジ作成。

メーメー賞

2—3 前田恋羽さん



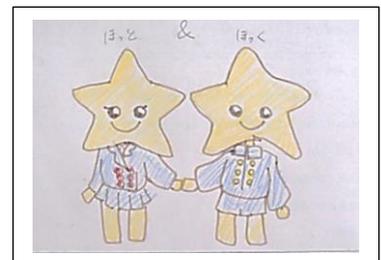
スマイル賞

1—3 丸田朔太郎くん



スター賞

5—A 高守紗菜さん



北斗の子宣言に込められた思いを活かし、マスコットキャラクターが決定したことを嬉しく思います。今後、様々な場面で登場させ、北斗の子どもたちの生き生きとした成長を応援する一つの手段とし、皆の一体感を高めていきます。応募してくれた皆さんに感謝です。

6年生は明日卒業します。在校生が、尽くす6年生の思いや願いを受け継いでいきます！

※裏面に続きます！

笑顔の支え

北斗のリーダー「尽くす6年生」から次期リーダー5年生への引き継ぎ式が行われました。引き継がれたものは、校旗、運動会トロフィー、小体会ユニフォーム、竹箒です。大切に引き継がれてきた伝統を象徴するものです。今年は四つに加え「学校は自分たちで創る」と書かれた額縁も引き継がれました。育友会と共に取り組んできた北斗の丘再生計画をはじめ、子ども主体の学校づくりを推進してきた尽くす6年生。それを引き継ぐ「FunFan5(5年生)」は、4月から自ら楽しさを創り出すことをテーマに培ってきた力を発揮し、送別集会・遠足の企画運営、初の取組みである全校遊びを成功させました。5年生の姿から、これまで教師サイドで企画してきた事を、子どもに託すことで、当事者意識を育む新たな成長の可能性が見えてきました。

では、子どもが主体的に活動するために、5年生担任は何をしたのか。最終的な判断や決定は子どもが行います。その前に、どのようなことをどのように取り組めばいいのか、視点と見通しをもつための指導を行うことで、子ども主体で動ける状態にしているのです。

子どもの姿に思いを巡らせて

また、日々の学級経営の中で子どもを導く言葉掛けをします。「学校は、楽しいところではありません、楽しさを自ら創るのです。」当事者意識を促す言葉掛けです。「時間の向こう側には人が待っています。物や事柄の向こうには必ず人がいます。」人を大切にすることを説きます。「人は平等ですが違いがあるのです。」他者理解の原点です。このような関わりは、教育に対する世の中の価値観が変わっても「人格の完成」という教育の目標は変わらないことを物語っています。

この1年間、明日の卒業式、そして修了式の子どもの姿に思いを巡らせながら学年経営を進めて参りました。温かさの中で共に高めあった「ひとつA組」。人が大好き北斗の子に成長した「やったあ1年生」。何事にも真剣に向き合う「グッド2年生」。やる気と責任感で自治的な風土を高めた「100%3年生」。やり甲斐を推進力にかえた「Live4年生」。

担任が、子どもと共に夢を追いかける事ができたのは、保護者の皆様の御理解と御協力のお陰です。1年間ありがとうございました。

教頭 橋田 晶拓

北斗の学び

北斗の学びの実現に向かって

今年度、担任とは異なる立場で「北斗の子の学び」について考えたとき、ある疑問が浮かんできました。それは、「なぜ人は、学ぶのか」ということです。「楽しい」「知りたい」という知的好奇心や、自分事である課題を解決したいという願い、夢の実現のための必要性。人は、様々な理由により学ぶのだと思います。それを踏まえながら北斗の子の学ぶ姿を見たとき、そこに「美しさ」を感じるようになりました。学びに没頭する姿。友達と協力する姿。課題を解決して満足そうな姿。上手にいかずに悔しそうな姿。子どもたちが見せる様々な姿から、改めて北斗の学びの魅力を味わうことができました。

そのような北斗の学びを支えてくださった保護者の皆様に感謝申し上げます。生活リズムを整えたり、体調管理をしていただいたりしたお陰で、どの教室でも豊かな学びを展開することができました。

また、地域を学びの場とする機会も徐々に増えてきました。学校だけでは難しい、本物にふれる経験もまた、北斗の学びを支えています。そのような機会を与えてくださっている地域の皆様にも感謝申し上げます。

北斗の教師は、これまでの知的財産や研究成果を生かしながら、これからも尽力してまいります。

子どもと保護者と地域と教師。北斗の学びに携わる全ての人の力を合わせて、これからも探究し続けます。

主幹教諭 吉田 公悦

潜入！附属小リアルスコープ

積み重ねてきたもの

全国でも有数の進学中学の、2023年度の入試問題に、ある変化が見られたと話題になりました。簡単に言うと、丸暗記した知識を問題のパターンに合わせて解く力より、自分の力で考えたり、難問に対して考え続けたりする思考力や意欲の方が重視されてきたのだそうです。このような近年の入試傾向の変化は、これからの未来社会に必要とされる力を反映しているとも言えるのではないのでしょうか。さて、附属小学校でも、今年度は授業の様相に同じような変化がありました。教科書の知識を学ぶことを目的とした、いわゆる「教科を学ぶ」のではなく、各教科を通して、様々な問題の解決に臨む、「教科で学ぶ」授業の割合を増やす方向へと転換を図ってきたのです。具体的に言うと、皆で一斉に同じ問題を解いて同じ知識を身に付けるのではなく、自分にとって何が疑問で、それをどのようにしたら解決できるのかを、それぞれで考えて進めていくような学習です。その問題解決はもちろん一筋縄では行きませんが、自分で感じた疑問なので、何とか解決したいと貪欲に取り組みます。その中で、成功も失敗も含め、あらゆる経験をします。そして最後には、それぞれが解決したことを交流し、幅広い知として身に付けていくのです。そのために私たち職員も、幅広い準備をして授業に臨みます。

このような学習を積み重ね、どのような問題に対しても持てる知を総動員し、たくましく前へ進む子どもを育てて参りました。北斗の子が未来へ大きく羽ばたいていく姿をこれからも楽しみにしています。

教務主任 才木 崇史